

校名：茨城大学教育学部附属中学校

所在地：〒310-0056 茨城県水戸市文京 1-3-32

電話番号：029-221-5802

記載日：平成28年5月20日

記載者：藤田 絹子

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

生徒一人一人に「**自主の名門**」という自負があります。

そのため、日々の生徒会活動を大切にするとともに、登山を伴う宿泊共同学習、創意溢れる文化祭(いばら祭)、感動的な合唱コンクールなどの伝統となっている行事についても、生徒が企画運営に携わり、生徒全員で一丸となって創り上げています。



毎年、**公開授業研究会**を行い、茨城大学の共同研究者と共に指導法の研究を進め、その成果を県内外に発信しています。また、地域のニーズに応えるため、小規模の授業研究会や研修会を県教育委員会等と共催して、公立学校の先生方と共に指導力の向上に努めています。

個性を認め合い、尊重し合える校風です。学

習や部活動で力を発揮するのはもちろんのこと、生徒個々が身に付けてきた能力、特技等を生かすことができ、それぞれの個性を認め、支え合える集団です。それは、生徒のみならず、教師集団にも言えます。一人一人の力や斬新な発想を認め、互いに学び合いながら、日々の教育活動を進めています。



貴校の卒業生の活躍状況について：

活躍状況について、追跡調査はしていません。しかしながら、あらゆる場で本校の卒業生が活躍しています。



河原泰則 かわはらやすのり (第6回卒業)

茨城県日立市生まれ。1973年一橋大学商学部卒業、一橋大学在学中に志行して桐朋学園に学び、コントラバスを専攻。小野伸治に師事。その後、ベルリン音楽大学に留学し、ライナー・ファンベルグ、ミシェル・シュバルへの師範校に師事した。77年に同大を卒業して卒業。78年ジュネーブ国際音楽コンクールで最高得点賞(「経済なしの2位」)。80年よりドイツの名門オーケストラ、ケルン放送交響楽団の首席コントラバス奏者を務めている。また、東京・紀伊郡から一年のレジデンス・オーケストラである経路野シシフォンエッセ音楽祭のメンバーでもある。オーケストラ演奏として活躍する一方、クルン管、スイス・ロマン管、シュトゥットガルト室内管等と協奏曲を、タリストフ・エッセンバウム、オリ・ムストホフ、オレ・ニコロ、エマニエル・パシ、イザベル・ファンターレン、クルビーニ建築四重奏、イザイ弦楽四重奏団と協奏曲を録音。また、ベルリン芸術劇場、シュレスヴィヒ・ホルシュタイン音楽祭、フェルトキルヒ、シュペルフィア・アド音楽祭など豊富な音楽祭出演も多い。CDではドイツ・ケルンと日本・フニエより3枚のCDが発売中。そのうち「ファンタジー・オーケストラ・コンサート」と題された「2015-16」の録音は「ライナー・ファンベルグ・オーケストラ」の95年・CDトップリストにアーティストとされるなど、いずれも高い評価を受けている。

ピアノ
漫遊さやか わたなべさやか

1995年、桐朋女子音楽学校卒業。32年、桐朋学園大学作曲科卒業。桐朋先生宅に師事し、作曲家高橋昌弘氏に師事。文・芸術フェスティバル賞アーティストとして「ア・ラ・カルト」収録、収録された録音は、東京・クラウが収録。2018年、フェリス学院の学生音楽祭に収録。録音された録音は、桐朋学園にて「ア・ラ・カルト」収録。また、東京・クラウ、メンデルソーン・音楽祭収録。録音。桐朋学園大学付属「ア・ラ・カルト」収録。



先輩ようこそ
河原泰則氏をお招きして

1999年10月12日(火)

茨城大学教育学部
附属中学校体育館

NHKのドキュメンタリーでも「ジャーナリストの立花隆氏」と「俳優の梅宮辰夫氏」の母校訪問の様子が放送されました。また、「ピアニストの豊田あい子氏」、「コントラバス奏者の河原泰則氏」(左参照)も在校生に演奏を聞かせていただきました。

卒業生の皆様のご活躍は、多方面に亘り、列挙しきれません。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査をしていませんが、以下の流れが比較的に多いと言えます。

- ① 茨城県教育庁義務教育課、または茨城県教員研修センターの指導主事を経て、教頭、校長、行政の課長、事務所長等を務める。
- ② 校長職にある時には、中心校の校長として、県校長会長などを務める。
- ③ 公立学校に戻った場合、教務主任、研究主任、生徒指導主事等を務め、学校運営に附属時代に培った手腕を生かす。

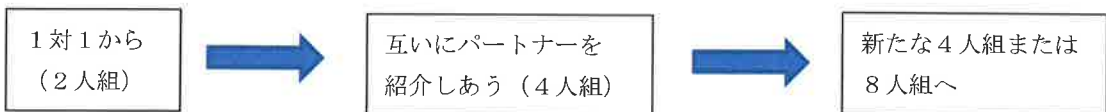
魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

ERD 活動

ERD 活動は、構成的グループエンカウンターの手法を集団における人間関係づくりに応用した活動です。「ERD」とは、

Encounter Recognition Development の頭文字をとったもので、それぞれ「グループの中での友との出会い」「友についての再認識」「人間関係の広がりと深まり」を意味しています。この ERD 活動は、比較的短時間でできるエクササイズも入っており、しっかり話を聴く態度を育むうえで有効です。

【ERD 活動の進め方】



【ERD 活動のねらい】

- 他の人との関係づくりを通して、自分自身を見つめ、人としての生き方を考える。
- 人と人とのよりよい関係を築いていくための基本的なスキルを体系的に学ぶ。
- 自分や他者の存在を大切にする心(I am OK. You are OK.)を育成し、よりよい人間関係を築こうとする態度を養う。
- 自分を開き他を受け入れようとする態度を養う。



ERD用紙		年 級 氏 名	
「私を図形にたとえると〇〇です」			
図形			
印章			
<選んだ(おぼひかれた)図形>		<選んだ理由>	
(標 榜)			
【今日のERDは】 ・相手の発言やすい気持ちで聴きましたか。 ・相手の大きさを尊重しましたか。 ・相手の話に目を凝らして聞きましたか。 ・心を備えて自分の思いや考えを伝えましたか。 ・友達の名前について、新たに気づけましたか。		実 績 ☆ - ☆ - ☆ - ☆ ☆ - ☆ - ☆ - ☆ ☆ - ☆ - ☆ - ☆ ☆ - ☆ - ☆ - ☆	

附中スクールボランティア

1999年に研究開発学校の指定を受けたことをきっかけに、PTA活動とは別に「生徒支援のためのボランティア組織」を立ち上げました。ボランティア登録者に様々な場面で支援を依頼する中で、学校と社会（ボランティア）を繋ぐパイプ役として、**スクールボランティアコーディネーター**という役割が生まれました。

それから17年が経過しました。この間、このような学校支援組織の必要性が認識され、公立学校でもボランティア組織が作られるようになりました。そこで、本校の機能的で先進的な組織や運営方法、あるいは、ボランティア活動の有り様等について、研修会で話をするように求められるようになり、教員ばかりでなく、**スクールボランティアコーディネーター**も同行し、実践を紹介する等の地域貢献をしています。

附中スクールボランティア活動の手引き



茨城大学教育学部附属中学校

氏名

教員研修のために

総合的な学習の時間に
関する研究開発指定校の
時に、その研究成果に係る
書籍を作成しました。(左)

また、文部省(当時)が
手がけた「総合的な学習の
時間」指導のためのビデオ
資料の作成に協力してい
ます。(右)



教師教育教材
「総合的な学習の時間」
～ビデオ教材～
事例紹介 中学校篇 1-1

2006・2007
「総合的な学習の時間」
ガイド教育開発センター
NIME

地域とともに



平成29年度には、**関附連茨城大会(平成29年11月2日、3日)**が開催されますので、多くの皆様のご来県を心待ちにしています。ちなみに、梅の季節には、日本三名園の一つである**偕楽園**で、観梅にいらっしゃった方々をおもてなしするボランティアを、中学生がしています。水戸市内の公立中学校共々、心を込めてお迎えしています。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

県教育委員会とは、教員研修の面で協力体制にあります。毎年開催する「**授業研究会**」は、次年度**採用予定の教員に対する教員研修の場**として位置づけられています。研究会では、教科のみならず、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間についても公開しています。また、水戸教育事務所と連携し、毎年指導力向上のための研修会を開催しています。更に、授業づくり研究会という自主研修組織を立ち上げ、地域の先生達の「指導力を向上させたい」というニーズに応える機会作りをしています。



保護者や地域の方の目からすると、地域の進学校への入学者数が非常に多く、抜きんでいますので、学力の高い生徒が多く、その実態に合わせた授業が行われているというイメージがあります。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

教員免許

茨城県内で教員養成系の教育学部が設置されているのは、茨城大学のみです。地域の公・私立大学において、例えば、英語や養護教諭等の免許を取得することは可能です。しかしながら、茨城大学と附属学校が存在することによって、全教科、あるいは道徳や特別活動の指導法について継続的かつ系統的に履修し、実践的に学ぶことが可能になり、安定的に教員を輩出することができるのです。

教育実習

茨城県では、小中学校間で**教員の交流**があり、**小中両方の免許**をもっていることが望ましいという状況にあります。茨城大学教育学部に在籍すれば、大学在学中に小中学校両方の免許を取得することが可能なカリキュラムになっています。これは、他の公・私立大学にはない教育課程であり、優秀な教員を確実に養成し、茨城県の義務教育段階の教員を安定的に確保するうえで非常に有効です。

また、本校は、茨城大学の学生及び本校卒業生を合わせて、年間約110名の教育実習生を受け入れています。教育学部の**基本教育実習**は、年に2回、約2週間ずつ行われています。従って、この実習期間には、全学級に4~5名の実習生を受け入れることになります。そして、授業参観、教科指導や生徒との実際の交流について場を提供し、指導にあたっています。

更に、教育学部の授業の一環である「教育実践研究」として、延べ約300名の学生を受け入れているほか、教職大学院の院生の皆さんに、課題発見実習のための場を提供しています。更には、県内私立大学の学生のために、毎年、授業参観・授業研究の場を提供し、地域への貢献・連携を図っています。